

『心の開国』 ウクライナを通して見る日本

～まず、知ること。そして、考える～

相馬雪香*国際IC日本協会元会長が、1979年に「難民を助ける会」を創設した際のスローガンは「インドシナ難民支援を通して、日本人の『心の開国』をしましょう」でした。令和の時代になりましたが、私たちは、『心の開国』をなすとげているでしょうか？普段の生活からは少し離れて、今、世界で起こっていることを知り、学び、私たちも『心の開国』を考える時間をもってみてはいかがでしょうか。

*相馬雪香（1912～2008） 「憲政の父」尾崎行雄の三女

国際IC交流会 **第三弾** オンライン 通訳付き

10月2日（日） 16:00～17:30

ウクライナの悲劇

～癒されぬ過去の再来

（ロシアからの謝罪）

エレナ・シュヴァルツ

生物学博士、英語教師



25年間モスクワ教育大学で英語の教師。
8年間は理学部の学生のための外国語学部の部長。現在は、セベルツォーフ生態学・進化研究所（ロシア科学アカデミーの支部）で教鞭をとりつつ、大学院教育部門のマネージャー。2000年代には、政治・公共活動にも参画。

強い民主主義をつくるための、
私たち市民ひとりひとりの役割

ジョン・ボンダ

元国際IC評議会事務局長



30か国のICで協働する中、
8年間、「オーストラリア国民謝罪の日委員会」の事務局長。

残酷で誤った政府の政策について、オーストラリアのアボリジニに謝罪し、苦い過去を克服するキャンペーンに約100万人のオーストラリア人が参加。これによって2008年に国会が全面的に謝罪し、アボリジニの悲劇的な社会状況を終わらせる新たな政策が打ち出された。この功績により、オーストラリア勲章を受章。

作家、ジャーナリストとしても活躍。4冊の著書を出版。

国際IC交流会 **第四弾** オンライン 通訳付き

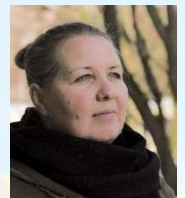
10月15日（土） 16:00～17:30

「心の開国」を学び、考えよう

～ウクライナを通して～

アンジェラ・スターヴォイトワ

ICボランティア



ロシア・サンクトペテルブルクで生まれたロシアの血を持つウクライナ人。クリミアで育ち、ロシアによるクリミア併合後は、首都のキーウに在住。両親はロシア在住。

個人の変革を促し、個人・グループの関係に変化を及ぼす、安全で信頼できる環境を作る参加型ファシリテーションに、20年の経験。
現在、非暴力コミュニケーションの認定トレーナー。

1990年代後半より、東欧において、個人・地域・国家レベルでの過去の癒しと和解を促し、真に自由で公正な社会を発展させる、ICの「Foundations for Freedom（自由への基盤）」プログラムに関わる。

現在、このFoundations for Freedomによって始められた、ウクライナの、「Network of Dialogue Facilitators（対話型ファシリテーターのネットワーク）」に携わる。非暴力コミュニケーションのアプローチを用いて、紛争解決、参加型ファシリテーション、平和構築、社会的結束に関する、対話・トレーニング・ワークショップ等を運営。IOM（国際移住機関）、UNDP（国連開発計画）、OSCE（欧州安全保障協力機構）の専門官

【主催】 お問い合わせ、お申込みもこちらへどうぞ

国際IC日本協会（担当:宮下・長澤） <http://iofc.jp/>

TEL：03-6273-1428 Fax：03-6273-1429 e-mail：info@iofc.jp

※メールにてお申し込みの際は、メールのタイトルを、「交流会参加希望」とご記入の上、

参加希望日（10/2、10/15、両方）を明記してください。

返信にて、Zoom会議のリンクをお送りします（各日先着100名）。